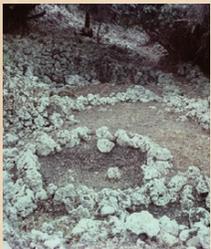




富盛の石彫大獅子

火除け(火返し)として1689年設置され、フィーザン(火山)といわれる八重瀬嶽に向かって立っています。高さ1.54m、幅約50cmと、この種の獅子像としては県内最大最古を誇り、県指定有形民俗文化財に指定されています。沖縄戦では被弾しながらも今なお、地域を守り続けています。

八重瀬町のグスク群



多々名グスクに残る石積み

現在町内で確認されているグスク時代の城跡は10にのぼり、その多くが琉球石灰岩丘陵で確認されています。グスクは主に13世紀後半～14世紀ごろに作られており、代表的な遺跡に八重瀬グスク、多々名グスク、具志頭グスクがあり、中でも八重瀬グスクは汪英紫によって築城され、隆盛を極めたと伝えられています。



港川遺跡公園

港川人発見地の岩の割れ目(フィッシャー)や、採石跡のほか、断崖面で見られる地層や鍾乳石の様子も見ることができます。この地域で1900年ごろから採石されてきたアワ石は県下に広く流通し、近代沖縄の産業に大きく寄与してきました。遺跡を含めた採石場跡一帯は「港川遺跡」として町の史跡に指定されています。

当銘・小城の共有龕



字当銘と小城が共有する葬具、龕(がん)は、「御拝領龕(グヘーロンガン)」と伝えられ、首里王府からの拝領によるもので、1833年に製作されたものです。この龕を供養する年忌祭は龕甲祭と呼ばれ、死者供養と同様に、1、2、3、7、13、25、33年ごとに行われます。

石獅子

沖縄では災いは集落の外からやってくると信じられてきました。災いを防ぐために、富盛の石彫大獅子の設置以降、県内各地に広まった村落獅子は集落の東西南北に設置されており、八重瀬町では今でも13体の石獅子が残っています。



いにしえのときを知る 八重瀬の文化財・史跡

OUR CULTURAL ASSETS AND HISTORICAL SITES

八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館



八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館では、港川人コーナーを中央に常設しています。発見者の大山盛保氏の記録とともに発見までの経緯を紹介し、港川人1号の骨格模型や復元模型も展示するなど、八重瀬町の2万2千年の歴史を楽しく学ぶことができます。

1970年、港川採石場から完全に近い形の人骨化石が発見されました。「港川人」と名付けられ、形態的特徴や共に出土した炭化物の年代測定から約2万2千年前のものと推定されました。沖縄県でこれまでに発見された多くの人骨化石が断片的なものであるのに対して、港川人はほぼ全身の骨格がそろっており、日本人のルーツを知るための貴重な資料として位置づけられています。港川人は石灰石の裂け目(フィッシャー)の中に埋もれて化石になっており、そこから人骨と一緒に様々な動物の骨も見つ

日本人のルーツ「港川人」

かっています。すでに絶滅しているリユウキウヅカのほか、現在でも生息しているイノシシ、ヤンバルクイナなど、今のヤンバル地域に生息する動物化石が発見されています。このことから、港川人がいた約2万年前、「港川一帯」は、現在の沖縄本島北部のような大森林地帯だったと考えられています。

港川人1号(成人男性)の身長は153cm、2号(4号)女性3体の平均身長は143cmです。体つきは小柄で、上半身は細く下半身は発達していて筋力は強かったようです。